

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3671700346		
法人名	(株)エクセレントケアシステム		
事業所名	グループホーム えくせれんと鴨島		
所在地	徳島県吉野川市鴨島町内原161-2		
自己評価作成日	令和1年12月25日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	令和2年1月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご入居様が日々楽しみを持ち生き活きと生活できるように支援し、DVDを取り入れたいろんな体操や、季節感ある行事・行事食、ボランティアの受け入れ、レクリエーションと楽しんで頂いています。また、気分転換を図る為に外に出ての散歩(外気浴)や中庭での植物の手入れ、週に2回きていただいている「とくし丸」での買物なども、希望される入居者に対応しています。毎月の施設の広報誌の配布を家族様を中心にお配りし、施設での生活の雰囲気を感じてもらえるように取り組んでおります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、田園風景が広がり、四季の移り変わりを楽しむことのできる環境に位置している。“住みなれた地域でやさしさと安らぎの暮らしを自分らしくゆったりと”という理念を掲げ、利用者の主体性を尊重した支援に取り組んでいる。研修や委員会は、日程を調整するなどして、全職員が参加できるように工夫している。今年度より、ネット回線を利用した社内研修や目標管理のシステムを導入し、サービスの質の向上やキャリアアップに向けて取り組んでいる。毎日のイベントとして、楽器の演奏やアニマルセラピー、フラワーアレンジメント、フェイスマッサージ、メイクアップなど、多様なボランティアの来訪があり、利用者の楽しみに繋げている。共用空間には、毎月利用者と職員が一緒に作成した作品や行事の写真を飾り、来訪した家族等や友人、知人との会話のきっかけづくりに取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット I 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	鴨島の理念【住みなれた地域でやさしさとやすらぎの暮らしを～自分らしくゆったりと】をフロアに掲げ、毎日エクセレントケアシステムの理念を復唱し、グループホームとしての役割を担えるように日々の業務に取り組んでいる。	事業所では、法人理念に基づいた“自分らしくゆったりと”という独自の理念を掲げている。毎朝、朝礼の際に、法人理念を唱和し、職員間での共有化を図っているが、事業所の理念について、職員間で共有したり、見直したりするまでには至っていない。	今後は、引き続き、法人理念の共有化も行いつつ、事業所独自の理念についても協議・検討・共有する機会を設けることに期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ご近所の方が月に数回程度遊びに来てくれていることで、地域での活動情報を提供して頂いたり、天気の良い日での散歩で挨拶したりと自然な形で地元住民としての交流が出来ている。	事業所では、散歩の際に挨拶を交わしたり、月に数回来訪があったりするなど、日常的に地域住民と交流している。来訪時には、事業所だよりを渡して、取り組みなどを知ってもらう機会としている。定期的に、ボランティアの来訪もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設を訪問された方々に情報提供が出来るように、高齢者福祉に関する資料を玄関に配置している。毎月の広報誌を発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所内での会議内容や職員状況、事故発生状況、活動内容、身体拘束研修などを毎回報告し意見交換会において話し合われた内容などを記録し、参加出来なかったご家族様にも郵送を行っている。	2か月に1回、運営推進会議を開催している。会議では、活動状況等を報告し、出席者から意見や質問、要望等を受けるなど、双方向的に協議している。会議には、利用者や家族代表、市の担当者、民生委員などの出席を得ているが、多岐にわたるメンバーの参画を得るまでには至っていない。	今後は、地域ボランティアや地元警察など、会議の内容に応じて多様な出席者を得ることが望まれる。サービスの質の向上に向けた地域の連携体制をとる機会として、運営推進会議の場を活かす取り組みに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	電話や訪問し常に連絡報告等対応を行って頂いている。サービス向上に繋げていくための研修会などの他に吉野川市地域密着型サービス事業所連絡協議会へも積極的に参加し助言を頂いている。	管理者は、毎月、市の担当者を訪問し、実績報告や運営等に関する相談などを行っている。制度上の疑問等が発生した際は、電話で相談するなど、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する勉強会の実施をしている。玄関に置いては9:00～18:00の時間において可能な時間帯(見守りができる、不穏な状態の入居者がいない時)には開錠し対応している。	事業所では、身体拘束廃止に向けた研修会を開催し、職員間で身体拘束の内容や弊害について理解・徹底できるよう取り組んでいる。日中は玄関を開放し、利用者が抑圧感を感じることはないよう、支援に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待に関する勉強会を実施している。身体的虐待以外にも心理的虐待又はスピーチロックにも注意を払うと共に、朝礼にて【ご入居者様の事を想う気持ち一番の姿勢で取り組みましょう】と唱和している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット I 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する勉強会を実施している。また成年後見制度を利用した入居様が居り、実際に後見人の方から話を機会が得られる為理解が深められつつある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の契約の際には重要事項説明書などを1つずつ説明し同意(サイン)を頂き、不足の無いように注意し対応をしている。改定の際には、同意書を頂くようにしており、説明し疑問も解決するように心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱や口答、苦情相談窓口の設置または、年に一度家族満足度調査(アンケート)にて聞き取り、検討会を行い運営に反映させられるよう心がけている。	職員は、日ごろから、利用者や家族等が意見や要望などを言いやすい関係作りに努めている。相談内容に応じて、聞く場所を変えるなど、配慮している。年1回、家族懇談会を開催したり、家族アンケートを実施したりして、意見等を聞き取っている。聞き取った意見等をもとに職員間で話しあい、運営面に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見や提案は業務改善提案書を提出するようになっている。その他全体会や日常的にも意見交換が行われ、委員会も設置し積極的な発言もあり、検討・決定されている。	管理者は、月1回の全体会議や年2回の個別面談を実施するなど、職員の意見や提案を聞く会を設けている。今年度から、職員の目標管理やサービスの質の向上に向けて、ネットを利用した社内研修にも取り組んでいる。職員からの提案等をもとに検討し、運営面に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与規定からの判断の他、キャリアパスの観点から業務管理評価シート(年2回)を活用し、個々の努力や実績を評価している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設での研修の他に外部で開催される研修への参加、介護福祉おける最新情報をことあるごとに伝達している。会社としてもzoomを利用した年間を通しての社内研修(人事部主催)が始まり、人材育成に積極的に取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	吉野川市地域密着型サービス連絡協議会を通し交流を行っている。また他施設の方を当事業所の行事への参加を促し活動を広げる努力をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット I 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	地域密着型サービスの利点を活かして住みなれた地域を話題にした会話や周辺の散策することなどで本人に安心して生活出来るよう努めている。事前に家族様から情報を仕入れ施設生活に取り入れられるように取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設より、積極的に連絡をとり良好な関係作りができるよう取り組んでいる。信頼をして頂けるように入居様の生活の様子を詳細に記入し閲覧、又は電話などでその都度連絡している。毎月配布している広報誌にて様子を感じてもらっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	経済的、身体的ニーズをくみ取り話し合いを通して利用可能な施設の調査や申込み等の支援を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居様の残像機能や負担を見極め無理のない範囲で調理・掃除・テーブル拭き・新聞折り等を手伝ってもらっている。車いすの自走など、できる範囲はお願いしたり、見守ったりと対応している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会での会話だけではなく、外出や病院受診などをご家族様にもご支援頂いている。ご入居様が不安などを訴えられた時などには訪問や電話での対応をして頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居様全員の実施は出来ていないが、施設周辺にある馴染のある商店などに買い物に行くなどの支援を行っている。入居前から通われていた美容院へ行かれる為の支援も行っている。	事業所では、入所に至るまでの人間関係などについて、利用者や家族等からの聞き取りなどにより把握に努めている。把握した情報に基づいて、馴染みの美容院や商店に出かけたり、電話の取り次ぎを行ったりするなど、関係継続に向けて支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居室に閉じこもってしまう事の無いように日中はなるべくフロアにて過ごせる雰囲気作りをし、レクリエーションや作業を通して共通の目的を持ち関わり合いが持てるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット I 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後、家族様への連絡などを行い、時には様子を伺うため訪問に伺うなど行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン作成に伴うアセスメントを行う際にはできない部分に着目するのではなく出来ている所にも目を向けそれが維持向上出来るよう、ポジティブプランの作成を心がけている。	職員は、日ごろの利用者とのかかわりの中で、会話や表情などから一人ひとりの思いを把握するよう努めている。意思の表出が困難な利用者にも、声かけを工夫するなどして思いを確認し、本人本意に検討している。家族等からも意向などを確認し、本人の要望等の実現に向けて支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族・担当ケアマネからの基本情報をもとに把握し、また、入居者本人からの会話からも情報を引き出し、どう過ごされていたのか等把握するようにし、会話の話題としても提供できるように取り組んでいる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員全体が一人ひとりの状態を把握出来るように経過記録、生活日誌、申し送りノートなどを活用し周知出来るよう取り組んでいる。全体会議において入居様の状態の変化等についても話し合いを行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議を行う事でそれぞれの意見をプラン作成に反映させている。またモニタリングを行う事で介護計画が現状に即しているかを確認している。	事業所では、利用者や家族等の希望を聞き取り、本人の楽しみやできることに着目した介護計画書を作成している。毎月、モニタリングを行い、現況に即した計画となるよう取り組んでいる。心身の状況の変化に応じて、医師や看護師の意見もききつつ、随時の見直しも行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の記録は詳細に記入し専門職でない方も分かりやすい様に専門用語などは試用しないよう心掛けている。その様な記録も参照し介護計画の作成に当たっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様の負担軽減を目的として規定とされていない病院受診の支援を行えるように努めている。必要と思われることは、その時にどうするのかを判断し対応、家族様とも協力をとりあえるようにつとめている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット I 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に民生員の方や近所の方に参加して頂く事で地域の情報や運営に関する助言を頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	鈴木内科がかかりつけ医の方である。井上歯科の歯科往診あり。他に皮膚科や眼科、大きい病院への定期受診などにも行かれており、ご家族様と相談しながら、個々に対応している。	事業所では、利用者や家族等の希望するかかりつけ医の受診を支援している。定期的に、協力医療機関の往診や歯科の訪問診療がある。週3回、看護師が体調チェックを行うとともに、緊急時に各医療機関と連携する体制も整備するなど、利用者などの安心・安全に向けて取り組んでいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内に月84時間程度、専属の看護師を配置し健康管理を行っている。ご入居様の心身の状態については随時、連絡を行うと共に申し送り簿なども活用して伝達に不備が無いように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関に協力して頂き必要な治療を行えるよう入院先などを決定している。入院中の状態については地域連携室の方と連絡を取ったり、直接訪問させて頂く事で健康状態を把握するようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合における指針を書面にて説明を行っている。終末期に向けたケアでは本人、家族、協力医療機関、施設職員で協議のもと対応を決定している。	事業所では、入居時の段階で、重度化や終末期における方針について、利用者や家族等に説明し、同意を得ている。随時、心身の状況の変化に応じて、本人や家族等の意向を確認しつつ、主治医などの関係者間で協議し、方針の共有化を図っている。職員は、ターミナルケア等に関する研修に参加するなどして、知識・理解を深めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師により救急救命における対応の仕方の指導が行われている。緊急時には連絡網を用いた連絡、緊急時における連絡体制についても定めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消火避難訓練を行っている。運営推進会議や地域密着型サービス事業所連絡協議会においても議題として挙げられ地域の協力体制について話し合われている。備蓄も常に管理し備えている。	年2回、事業所では、消防署などの協力を得て、防災訓練を実施している。日中・夜間における火災を想定し、避難訓練や消火訓練などに取り組んでいる。定期的にマニュアルを見直したり、備蓄食料を昼食として提供したりするなど、実践的に取り組んでいるが、地域住民などを交えた、協力体制の構築までには至っていない。	今後は、地域住民や地域団体に働きかけ、災害時における事業所の取り組みについて理解を求めるとともに、より幅広く協力体制を構築することが望まれる。災害時における話し合いを行うなど、具体的な取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット I 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	朝礼で【入居者様、来賓、職員には礼儀正しく丁寧な対応をしましょう】と毎日唱和し実践に結び付けている。	事業所では、定期的に法令遵守や権利擁護などに関する研修会を開催している。利用者一人ひとりの人格を尊重しつつ、プライバシーに配慮したケアの実践に向けて、意識の共有化を図っている。職員は、日ごろの支援における言葉づかいには特に注意を払い、本人の気持ちに寄りそった支援に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	いくつかの活動をするかしないかを確認し対応している。買物や外出・散歩については、可能な範囲での対応となっているところではある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	予定のスケジュールもあるが興味関心がない場合もあり、予定以外の活動も行っている。その日をどのように過ごしたいのか自己決定を促せる多くのプランは充実していない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪型や身だしなみが崩れないよう随時対応している。移動美容室を隔月ずつ利用している。またボランティアによる美容マッサージを月に1回行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	簡単な調理手伝い(野菜の皮むき、お菓子作り)をしている。食事は職員と入居様が同じものを一緒に食べる様にしている。	食事は、利用者の希望や季節の食材を取り入れて、事業所内で調理している。利用者とともに、下膳や台ふき、おやつ作りを行うなど、一人ひとりの力が発揮できるよう支援している。誕生日に利用者と一緒にケーキを作ったり、懐石風の行事食を提供したりするなど、食事が楽しみなものとなるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取量に関しては毎回、記録を行い心身の状態を観察して対応している。食事の形態もそれぞれの嚥下・咀嚼の状態に合わせている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ほぼ全員、毎食後の歯磨きや入れ歯洗浄が行われている。動作することを嫌がり洗浄が行われないケースも有るが必要に応じて歯科医師の往診があり口腔内の指示を受け対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット I 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の状態を記録してタイミングを計ったトイレ誘導を行い失禁を防止できる様に努めている。トイレを使った排泄を行えるように支援している。	職員は、利用者一人ひとりの排泄パターンの把握に努めている。トイレ誘導の際は、利用者の尊厳やプライドを損なわないよう、さりげない声かけや介助を心がけている。トイレの場所に目印をつけたり、適切に声かけを行ったりして、自立に向けた支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	なるべく自然排便となるように体操や運動を行っている。便秘症がみられる方では排便の状況を看護師に報告し、主治医と連携を図り対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は個別にゆっくりと行っている。夜に入浴したいといったニーズは今のところはなく、日中での入浴対応で実施している。	事業所では、週2回は入浴できるよう支援している。利用者一人ひとりの意向や希望などを確認し、羞恥心や不安感に配慮している。心身の状況に応じて、ホットパックや足浴も行っている。希望に応じて、個別にシャンプーを用意するなど、入浴を楽しむことができるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間に安眠が出来るように体操や運動を行えるようにしている。長時間の活動が行えない方は横になり休息を取るようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとり服薬の処方箋を個別ファイルに綴じている。症状については主治医や看護師に報告する事で服薬調整や処方の変更をして頂ける様対応を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみ、衣類修繕などを役割として行って頂いたり、毎日の活動として、計算、音楽鑑賞、テーブルゲーム、合唱、パズル、新聞購読、日記の記帳を行っている方もおり対応している。居室で勤行を1時間程されている方もおられます。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出日和には周辺の散策外へ出ていく機会を作っている(午後の時間)。ご家族様に協力頂き、外出されたり。施設の外出行事として希望をとり出かけたりとしている。	事業所では、日ごろから、買い物や理・美容院等に出かけるなど、外出支援に取り組んでいる。家族等の協力を得て、初詣や外泊を支援することもある。外出が困難な場合も、気候のよい時期には車いすで外出したり、中庭の花壇を整備して景色を楽しめるようにしたりするなど、工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット I 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理については、ご家族様に協力をして頂いている。買い物などで使用する場合は立替金として対応している為、ご本人がお金の所持や使うといったところまでには至っていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望された時に電話をかけられるようにしている。以前に所属されていた団体からの手紙を頂いている方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	観葉植物を置いたり移動がしやすいようにテーブルの配置を工夫している。天窗がある事で太陽の光が入るように設計されている。また水槽を置き餌やり等もしている。	共用空間には、毎月、利用者と職員と一緒に作成した飾り付けや行事の写真などを飾り、季節感を感じることができるようにしている。調理の様子や煮炊きするかがりが漂うなど、居心地のよい空間づくりに取り組んでいる。共用空間のテレビの向きを工夫して、居室のベッドで見れるようにするなど、一人ひとりの状況にも配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自分の居場所を自由に決められるようにソファを設置している。ソファで利用者様同士や時には新聞を読まれたりと思い思いに過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様に本人が使い慣れた物を持ってきてもらえるように伝えている。仏壇を持って来られたり、鏡台を置かれ思い思いに過ごされる様支援している。	居室には、馴染みのある家具や書籍、仏壇などを持ち込んでもらうことで、安心して過ごすことができるよう支援している。重度化した利用者が、居室でも他の利用者とともに体操や音楽を楽しむことができるよう、ベッドの配置などを工夫して、孤独や不安を感じることはないよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行が不安定な方は歩行器やシルバーカーを使用している。部屋を間違えてしまう事が無いように入り口に目印になるようなものを取り付けている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニットⅡ 実践状況	実践状況	実践状況
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	鴨島の理念【住みなれた地域でやささとやすらぎの暮らしを～自分らしくゆったりと】をフロアに掲げ、毎日エクセレントケアシステムの理念を復唱し、グループホームとしての役割を担えるように日々の業務に取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	ご近所の方との交流が持てるようにお中元やお歳暮といった日本の風習を自然な形でやっている。また、日常的な挨拶も職員一同で励行し、場合によっては駐車場の貸し出しなども行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設を訪問された方々に情報提供が出来るように、高齢者福祉に関する資料を玄関に配置している。毎月の広報誌を発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所内での会議内容や職員状況、事故発生状況、活動内容、身体拘束研修などを毎回報告し意見交換会において話し合われた内容などを記録し、参加出来なかったご家族様にも郵送を行っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	電話や訪問し常に連絡報告等対応を行っている。サービス向上に繋げていくための研修会などの他に吉野川市地域密着型サービス事業所連絡協議会へも積極的に参加し助言を頂いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する勉強会の実施をしている。玄関に置いては9:00～18:00の時間において可能な時間帯(見守りができる、不穏な状態の入居者がいない時)には開錠し対応している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待に関する勉強会を実施している。身体的虐待以外にも心理的虐待又はスピーチロックにも注意を払うと共に、朝礼にて【ご入居者様の事を想う気持ち一番の姿勢で取り組みましょう】と唱和している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニットⅡ 実践状況	実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する勉強会を実施している。また成年後見制度を利用した入居様が居り、実際に後見人の方から話を機会が得られる為理解が深められつつある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の契約の際には重要事項説明書などを1つずつ説明し同意(サイン)を頂き、不足の無いように注意し対応をしている。改定の際には、同意書を頂くようにしており、説明し疑問も解決するように心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱や口答、苦情相談窓口の設置または、年に一度家族満足度調査(アンケート)にて聞き取り、検討会を行い運営に反映させられるよう心がけている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見や提案は業務改善提案書を提出するようになってきている。その他全体会や日常的にも意見交換が行われ、委員会も設置し積極的な発言もあり、検討・決定されている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与規定からの判断の他、キャリアパスの観点から業務管理評価シート(年2回)を活用し、個々の努力や実績を評価している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設での研修の他に外部で開催される研修への参加、介護福祉おける最新情報をことあるごとに伝達している。会社としてもzoomを利用した年間を通しての社内研修(人事部主催)が始まり、人材育成に積極的に取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	吉野川市地域密着型サービス連絡協議会を通し交流を行っている。また他施設の方を当事業所の行事への参加を促し活動を広げる努力をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニットⅡ 実践状況	実践状況	実践状況
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	地域密着型サービスの利点を生かして住みなれた地域を話題にした会話や周辺の散歩することなどで本人に安心して生活出来るよう努めている。事前に家族様から情報を仕入れ施設生活に取り入れられるように取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設より、積極的に連絡をとり良好な関係作りができるよう取り組んでいる。信頼をして頂けるように入居様の生活の様子を詳細に記入し閲覧、又は電話などでその都度連絡している。毎月配布している広報誌にて様子を感じてもらっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	経済的、身体的ニーズをくみ取り話し合いを通して利用可能な施設の調査や申込み等の支援を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居様の残像機能や負担を見極め無理のない範囲で調理・掃除・テーブル拭き・新聞折り等を手伝ってもらっている。車いすの自走など、できる範囲はお願いしたり、見守ったりと対応している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会での会話だけではなく、外出や病院受診などをご家族様にもご支援頂いている。入居様が不安などを訴えられた時などには訪問や電話での対応をして頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居様全員の実施は出来ていないが、施設周辺にある馴染のある商店などに買い物に行くなどの支援を行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居室に閉じこもってしまう事の無いように日中はなるべくフロアにて過ごせる雰囲気作りをし、レクリエーションや作業を通して共通の目的を持ち関わり合いが持てるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニットⅡ 実践状況	実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後家族様への連絡などを行い、時には様子を伺うため訪問に伺うなど行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン作成に伴うアセスメントを行う際にはできない部分に着目するのではなく出来ている所にも目を向けそれが維持向上出来るよう、ポジティブプランの作成を心がけている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族・担当ケアマネからの基本情報をもとに把握し、また、入居者本人からの会話からも情報を引き出していき、どう過ごされていたのか等把握するようにし、会話の話題としても提供できるように取り組んでいる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員全体が一人ひとりの状態を把握出来るように経過記録、生活日誌、申し送りノートなどを活用し周知出来るよう取り組んでいる。全体会議においてご入居様の状態の変化等についても話し合いを行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議を行う事でそれぞれの意見をプラン作成に反映させている。またモニタリングを行う事で介護計画が現状に即しているかを確認している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の記録は詳細に記入し専門職でない方も分かりやすい様に専門用語などは試用しないよう心掛けている。その様な記録も参照し介護計画の作成に当たっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族様の負担軽減を目的として規定とされていない病院受診の支援を行えるように努めている。必要と思われることは、その時にどうしていくかを判断し対応して、家族様とも協力をとりあえるようにつとめている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニットⅡ 実践状況	実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に民生員の方や近所の様に参加して頂く事で地域の情報や運営に関する助言を頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	鈴木内科がかかりつけ医の方である。井上歯科の歯科往診あり。他に皮膚科や眼科、大きい病院への定期受診などにもいかれており、家族様と相談しながら、個々に対応している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内に月84時間程度、専属の看護師を配置し健康管理を行っている。ご入居様の心身の状態については随時、連絡を行うと共に申し送り簿なども活用して伝達に不備が無いように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関に協力して頂き必要な治療を行えるように入院先などを決定している。入院中の状態については地域連携室の方と連絡を取ったり、直接訪問させて頂く事で健康状態を把握するようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合における指針を書面にて説明を行っている。終末期に向けたケアでは本人、家族、協力医療機関、施設職員で協議のもと対応を決定している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師により救急救命における対応の仕方の指導が行われている。緊急時には連絡網を用いた連絡、緊急時における連絡体制についても定めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消火避難訓練を行っている。運営推進会議や地域密着型サービス事業所連絡協議会においても議題として挙げられ地域の協力体制について話し合われている。備蓄も常に管理し備えている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニットⅡ 実践状況	実践状況	実践状況
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	朝礼で【入居者様、来賓、職員には礼儀正しく丁寧な対応をしましょう】と毎日唱和し実践に結び付けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	いくつかの活動をするかしないかを確認し対応している。買物や外出・散歩については、可能な範囲での対応となっているところではある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	予定のスケジュールもあるが興味関心がない場合もあり、予定以外の活動も行っている。その日をどのように過ごしたいのか自己決定を促せる多くのプラン充実していない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪型や身だしなみが崩れないよう随時対応している。移動美容室を隔月づつ利用している。またボランティアによる美容マッサージを月に1回行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	下膳の手伝い、台拭きなどをしてもらっている。食事は職員と入居様が同じものを一緒に食べる様にしており、昼食は、一緒に食べるようにしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分御摂取量に関しては毎回、記録を行い心身の状態を観察して対応している。食事の形態もそれぞれの嚥下・咀嚼の状態に合わせている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ほぼ全員、毎食後の歯磨きや入れ歯洗浄が行われている。動作することを嫌がり洗浄が行われないケースも有るが必要に応じて歯科医師の往診があり口腔内の指示を受け対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニットⅡ 実践状況	実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の状態を記録してタイミングを計ったトイレ誘導を行い失禁を防止できる様に努めている。トイレを使った排泄を行えるように支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	なるべく自然排便となるように体操や運動を行っている。便秘症がみられる方では排便の状況を看護師に報告し、主治医と連携を図り対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は個別にゆっくりと行われているが、曜日・時間については職員が調整させてもらっている。体調不良時は清拭などで対応して清潔を保持している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間に安眠が出来るように体操や運動を行えるようにしている。長時間の活動が行えない方は横になり休息を取るようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとり服薬の処方箋を個別ファイルに綴じている。症状については主治医や看護師に報告する事で服薬調整や処方の変更をして頂ける様対応を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみや、簡単な掃除などを役割として行っている。毎日の活動としてDVD体操や音楽鑑賞、新聞購読、などを行っている。季節にあわせたレクも実施している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族様に協力支援をお願いし対応したり、外へ出ていく機会を作る為行事ごとの外出活動(花見、買い物など)を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニットⅡ 実践状況	実践状況	実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理については、ご家族様に協力をして頂いている。買い物などで使用する場合は立替金として対応している為、ご本人がお金の所持や使うといったところまでには至っていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望された時に電話をかけられるようにしている。家族様からの手紙・はがきを頂いている方がいる。また年賀はがきを出される方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	移動がしやすいようにテーブルの配置を工夫している。季節の飾りつけ、写真の掲示も行っており、ソファにて、ゆったりと過ごしてもらえるようにもしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自分の居場所を自由に決められるようにソファを設置している。マッサージ器も設置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族様に本人が使い慣れた物を持ってきてもらえるように伝えている。居室内にテレビやいすを置きそこでくつろいだり入居者様同士で部屋へ行きしコミュニケーションを図る方もいらっしゃる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行が不安定な方は杖や手すりを使用している。部屋を間違えてしまう事が無いように入り口に目印になるようなものを取り付けている。		